篁 TAKAMURA

小野政吉作「若人達」2004（平成16）年　さくら市ミュージアム －荒井寛方記念館－ 蔵

特集 時代に生きる ― 私の団塊世代白書 …… 2~5

- 総会 講演会講師 …… 1
- 篁会会長・校長挨拶 …… 6
- なつかしの先生 …… 7
- 学校の活動報告 …… 8
- 在校生の活躍紹介 …… 9
- をとめの会 …… 10~13
- 関西・湘南篁会だより …… 14・15
- 竹早エコー …… 16~18
- 「篁」回覧板 …… 18
- 清里高原　竹早山荘から …… 19
- 篁情報館 …… 20・21
- 平成19年度総会報告 …… 22・23
- 理事会報告 …… 24
- お知らせ・訃報・編集後記 …… 25

告! 会報『篁』20号［特集号］の原稿を募集します

（詳細は21頁をご覧ください）

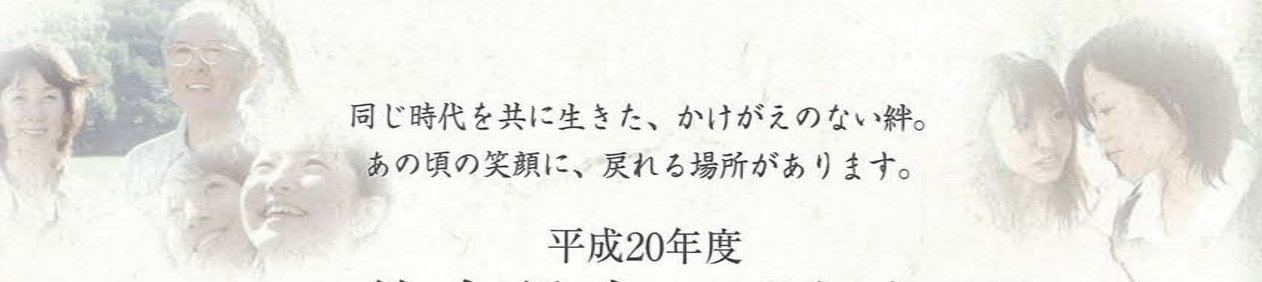
会報編集委員

委員長　原　嘉昭（17回生）

委　員　関　文隆（10回生）　水津　彰（16回生）　笹平　久仁子（18回生）
角掛　隆（10回生）　佐藤　美紗子（16回生）　鈴木　玲子（18回生）
小杉　義信（11回生）　足立　裕宏（17回生）　田村　和枝（18回生）
市瀬　勝信（13回生）　川口　明（17回生）　野川　淑子（18回生）
遠藤　きみ（13回生）　高見　晴美（17回生）　森　多恵子（18回生）
茂木　伸太郎（14回生）　堀田　崇子（17回生）　伊藤　孝（19回生）
山内　亨（14回生）　松島　美弓（17回生）　鈴木　輝夫（19回生）
長谷川万里子（14回生）　秋田　秀明（18回生）　木村　民子（19回生）
土田　善則（15回生）　宮崎　亮（18回生）
川島　己代（15回生）　一柳　由貴子（18回生）

篁会報

発行日　2008年4月23日
発　行　篁会
〒112-0002
東京都文京区小石川4-2-1
東京都立竹早高等学校内
http://takamurakai.com
編　集　篁会 会報編集委員会
印　刷　望月印刷株式会社
埼玉県さいたま市中央区円阿弥5-8-36



同じ時代を共に生きた、かけがえのない絆。
あの頃の笑顔に、戻れる場所があります。

平成20年度

篁会総会のご案内

日時

2008年6月15日(日)

受付開始　10:30～
総　　会　11:00～11:30
講 演 会　11:45～12:30
懇 親 会　12:45～14:45

会場

第一ホテル東京 5階 ラ・ローズ

〒105−8621 東京都港区新橋1−2−6
TEL03−3501−4411(代)
[JR新橋駅下車 徒歩2分]

会費

8,000円
(平成17～19年卒は2,000円／平成20年卒は無料)

- ご出席の方は、同封の葉書で5月26日までにお申し込みください。
- 会費は、6月2日までに同封の郵便局振込用紙にてお支払いください。

交通のご案内

JR山手線・京浜東北線・東海道線をご利用の場合
・コース1−日比谷口(SL広場)より徒歩2分
・コース2−銀座口より地下鉄銀座線7番出口へ　(新橋内幸町地下歩道D出口と直結)

東京メトロ銀座線・都営地下鉄浅草線をご利用の場合
・7番出口方面へ(地下歩道D出口と直結)

都営地下鉄三田線をご利用の場合
・内幸町駅下車A2出口より徒歩3分

今回幹事

高校18回生(昭和41年卒)
高校29回生(昭和52年卒)
高校39回生(昭和62年卒)
高校59回生(平成19年卒)

次回幹事

高校19回生(昭和42年卒)
高校30回生(昭和53年卒)
高校40回生(昭和63年卒)
高校60回生(平成20年卒)

懇親会は、同期会・クラス会・クラブOB会の場としても、ご利用いただけます。下記へご連絡ください。グループ席を準備いたします。

(お問合わせ先)
野川 淑子　TEL.03−3269−6595
笹平久仁子 TEL.03−3923−4696

総会・講演会講師紹介

月へのロマンに魅せられて

加藤 學(マナブ) 氏
宇宙航空研究開発機構(JAXA)教授
月探査衛星「かぐや」サイエンスマネージャー

2007年9月14日、日本初の大型月探査機・月周回衛星「かぐや」が種子島宇宙センターより打ち上げられました。
「かぐや」に搭載されたハイビジョンカメラで撮影された月面からの「地球の出」、「地球の入り」をテレビで見て、私達の住む地球はこんなに美しい星だったのかと感動しました。
開発までのご苦労や難しさ、また果たすべき役割等を、「かぐや」開発の内幕をもっともご存じの加藤學さんから、映像とともにわかりやすく楽しく解説していただきます。
小学生の頃、早朝に父親に起こされて「スプートニク」という人工衛星を見たことを今でも覚えているという加藤學さんは、97年から宇宙航空研究開発機構(JAXA)で月探査計画に参加していらっしゃいます。
科学技術の進歩により、どんな月の世界観がでてくるのか、お話が楽しみです。

加藤 學(マナブ) 氏 プロフィール
Profile

1949年愛知県生まれ。1985年に名古屋大学にて理学博士を取得。日本学術振興会奨励研究員、名古屋大学理学部の助手、助教授を経て、1997年より宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙科学研究本部固体惑星科学研究系教授。「かぐや」サイエンスマネージャー。「かぐや」に搭載された観測装置の1つ蛍光X線分光器を担当する。小惑星探査機「はやぶさ」にも参画。
2013年頃に欧州宇宙機関(ESA)とJAXAが共同で打ち上げる予定の水星探査機「ベピコロンボ」のメンバーでもある。

加藤 學氏と竹早高校とのご縁は?
団塊世代の研究者を講演者としてお迎えすることができました。実は、18回生の編集委員の従兄弟にあたられます。

特集 時代に生きる——私の団塊世代白書

団塊世代と呼ばれる昭和22年（1947）からその後数年の間に生まれた人たちは、その人口が多いことで生まれてから今日まで何かにつけ注目を集めてきました。
その世代が昨年から60歳を迎えています。節目といわれる年齢になる団塊世代の方々に、今までの人生、そしてこれからについて語っていただきました。仕事や家庭に前向きに取り組んできた姿を見ることができると思います。

ベビーブーマーから団塊の世代へ

宮崎　亮　高校18回生（昭和41年卒）

私は敗戦後２年目の夏、板橋区で生まれました。小学校では二部授業で午後クラスを体験し、中学校は８クラスで教室いっぱいに生徒がひしめいていました。更にここには別の８クラスが仮設校舎に同居していました。この時期、地方では中学浪人という事態があったようです。

高校３年間の間に世の中は騒がしくなり、高速道路の建設、東京オリンピックの開催、学園紛争などが強く記憶に残っています。

洗剤メーカーに勤めてから1971年にニクソンショック（ドルの金との交換停止）があり、固定相場制度（1＄＝￥360）が崩れ、1973年に変動相場制（1$＝￥250）に移行し円高時代が始まりました。10月には第４次中東戦争（オイルショック）が勃発し、噂が噂を呼ぶ急激な物不足になり、トイレットペーパー、洗剤、砂糖・塩などが店頭からなくなる個人的な買占め現象が発生しました。この時、製品の在庫が見る見る無くなって行くことを実感しましたが、暫くすると鎮静化し製品の過剰供給状態となりました。

1976年から海外に行くことになり、成田に新空港が建設されておりましたが、開港が延びており、羽田が国際空港として機能し、その頃の混雑は凄かったことを思い出します。今の、大きく・機能的に拡張された羽田空港を見ると隔世の感があります。

1978年5月に新空港が開港し海外へはここを使うことになりました。日本では、長い時間の経過が物事を解決する一つの大きな手段であると思うことがあります。

当初は合成繊維技術を導入している国であるメキシコ・アルゼンチン・インド・韓国などの国に行くようになりました。今では、これらの国のイメージは当時と相当異なります。その当時の南米諸国は超インフレ社会で、翌年行く時にはデノミが行われ紙幣が変わっている事は当たり前の感じでした。

当時欧州へはアンカレッジを経由しており、北極圏上空からシベリアのツンドラ地帯の雪に覆われた広大な風景を見ることができました。今ではツンドラの氷が解け始め湖が出来てしまったようです。その頃は人類の活動に対して地球は広大で無限であるという感覚でいましたが、それから三十数年で人口の増加・開発途上国の活性化などが複合要因となり、地球が有限であり人類の持続的な発展を支え続けるにはもう既に限界に来ているようです。これからの団塊の世代は、自然と共生する生活を探す必要があるようです。

宇宙開発事業団に勤務して

吉州　洋子　高校18回生（昭和41年卒）

このところ新聞、テレビ等マスコミで「団塊世代の大量退職時代到来」と見聞きするたびに小学生の頃「あなた達は死ぬまで競争して行かなければならないわね」と言った母の言葉が想い出されます。ひと区切りとしての定年退職（還暦、と言っても自分がその歳になるとの実感が沸かないのですが）が直前に迫る今、30数年間勤務してきた職場での出来事が走馬燈のように頭の中を駆け回っています。

当時は今ほど名前を知られていなかった宇宙開発事業団に、これも狭き門をくぐって入って早々に、忘れることの出来ない想い出として、専門用語の理解不足から来る今から思えば笑い話しになる出来事がありました。何だかお門違いのところに就職してしまったのではないか？と不安に駆られたことがありましたが、幸いなことに同僚、上司に恵まれ、丁寧に教授いただきながら少しずつ学んで行き、担当する仕事もいろいろな分野を経験させていただきました。なかでも感謝しているのが理事長秘書として、今は亡き島秀雄顧問（新幹線生みの親として著名であり、文化勲章を受章されていらっしゃいます）にお仕えし、日々の業務を通して公私共に親からは決して教えられることのない、人及び組織の長としての大切なことを学ばせていただいたこと、広報部門に配属されたときには、報道機関対応として私には合っていないのでは？辞めてしまおうか？と真剣に考えたほど辛かった業務もある一方、衛星打上げ失敗時のマスコミ、一般国民への説明責任が果たせた時の上司の配慮、宇宙飛行士達、特に同じ価値観を持つ向井千秋さんとの仕事上での長いお付き合いから得たもの、通算５回目の配属となる国際部では、業務を遂行しながら培ってきた世界の人々との繋がり、文化への理解、出社するのが楽しくて仕方がなかった日々等、多数の写真を見る度に想い出が尽きないのですが、振り返りますとこれも皆、同僚、上司、仕事に恵まれた賜物と感謝の気持ちが沸き上がってくるこの頃です。

昨年夏に、永い間苦楽を共にし私の定年退職を楽しみに待っていた母がその日を迎えることなく急逝してしまい寂しさが募りますが、気持ちを切り替えてこれまでに築き上げた人脈と仕事を大切にしながら、第二の仕事に励んで行こうと思っております。

国外でのふれあいを振り返って

柴本　正美　高校19回生（昭和42年卒）

団塊世代の一人として、これまで過ごしてきた日々を振り返ってみると、前の世代の方々が戦後築き上げてきたことを引き継いで、多くの恩恵を受けた感があります。そのうちの一つは個人にとって海外に出て色々の人に会う機会を持てる様になったことです。

石油随伴力ガス関係エンジニアとして仕事がら多くの国に出かけてきましたが、印象に残るのは30年程前のブレジネフ元書記長時代の旧ソ連の時のことです。私が行ったのは西シベリヤの新興の町でした。通算１年以上の滞在で覚えたかたことの露語でいわゆる“普通の”人と知り合いになり、家庭にも招かれて肌でその生活、考え方を体験できました。多くの人に強く感じたのは、彼等の素朴さでした。ずるさがない、というよりも人を騙したり、嘘をつく術を知らないという感覚を受けました。それは話をする際に、自分がはっきり理解しないことを安易に話せないと言う圧力を受けた程です。

この素朴さはどこから来るのか。当時、旧ソ連のテレビは国威高揚や共産主義関連の番組がほとんどで、サスペンスなどほとんど放映されていませんでした。情報の少ない環境下になると、人間の性善説は正しいのか、と大げさながら思った記憶があります。

いま、日本では“嘘、偽”にまつわる事件が多発していますが、情報が溢れ、悪意にも簡単に利用できるのが原因の一つと思います。しっかりした倫理観が必要な時代であり、自分自身の判断基準は？と振り返る機会が増えたこの頃です。

ホテルウーマンの思い出あれこれ

一柳　由貴子　高校18回生（昭和41年卒）

平成20年６月15日に開催の篁会総会の会場は、新橋駅前の「第一ホテル東京」に決まりました。30年以上もこの第一ホテルグループ（現在は阪急阪神第一ホテルグループ）で働いてまいりました私と致しましては、何とも嬉しい有り難いお話です。

この第一ホテル東京は、私の入社した昭和45年（1970年）には、新橋第一ホテルという名の本館と新館あわせて約1200室のビジネスマン向けのホテルでした。大阪の万博の年でもあり、２年後の銀座第一ホテルの開業も控え、新入社員は100名という活気ある時代でした。ホテルは連日満室で、当時内幸町にあったNHKの朝のニュース担当のアナウンサーや全盛のプロレスの外人レスラーや宝塚の演出家や作家等々の宿泊利用もありました。

私は、新橋第一ホテルのフロント、銀座第一ホテルのセールス等、ホテルの宿泊部門で長く仕事をしてきましたが、2001年に吉祥寺第一ホテルの宴会セールスの仕事に就き、初めて宴会部門で仕事をするチャンスを得ました。たまたま東小金井にスタジオのあるアニメ制作会社より、映画の完成を機にスタッフをねぎらうパーティーのご予約をいただき、300名の大パーティーの企画担当を致しました。この会社の作品の大ファンだった私は、ハラハラ、ワクワクしながら担当させていただきました。その後も同社のパーティーを何回か担当いたしましたが、「宴会の仕事って面白い」と思い出した頃、定年を迎えました。現在もシニア

パートナーズという形で、吉祥寺第一ホテルのパンとケーキの店で働いております。

振り返れば、右肩上がりの好景気もオイルショックも経験しましたが、プライドを持って働く女性の先輩や失敗しても支えてくれた上司のお蔭で今日まで働いてこられたことに感謝したいと思います。「セ・ラ・ヴィ」これも人生…。

新たなつながりを願って

佐藤　一枝　高校21回生（昭和44年卒）

前列 右から2番目が佐藤さん

昭和41年入学の私達は府立第二高女であった竹早の伝統と校風に憧れて入学した最後の学年だったかも知れません。翌年からは学校群制度試験で竹早に振り分けられた新入生でしたから。先輩の竹早生にたけのこ結びを教えていただき、そのネクタイの重さをうれしく感じながら誇らしい気持ちで入学式にのぞんだことを思い出します。

ですが、あこがれていた高校生活とはかけはなれた学力重視の競争を強いる雰囲気には落ちこぼれ意識を持たざるをえませんでした。

忘れたいことの多い竹早での3年間でしたが、今も心に残る先生と出会うこともできました。

一年の担任は国文の片寄正道先生。ある時、墨香ゆかしい和綴じの写本を見せて下さいました。かな文字の徒然草や、源氏物語だったでしょうか、先生ご自身の手になるものとうかがい感激いたしました。書の手本にしたいと図々しく申しましたら夏休み中お貸し下さり、手習いした幾枚かをお見せしましたらとても喜んで下さいました。

家庭科の藤原澄子先生からは家庭経営を学びました。「良妻賢母であれ」と声高でなくお教えいただいたと思います。

保健体育の大西恵子先生のご自身の日常話をまじえた飾り気のない率直なお話しぶりの課外授業？も楽しみでした。

50歳後半になった今、ようやくそれぞれの先生の当時のお立場や心情を察することができるようになりました。いま改めて「先生」とお呼びして感謝を申し上げたい思いでおります。

2004年4月、私達21回生は卒業後初めて同期会を開くことができました。100人を超える盛会でした。ご自身もお母様もご長女も3代竹早の卒業生で、100周年事業にも深く関わられた方のご尽力での実現です。

以後、近県の小旅行、お花見会。夏の納涼会、冬は忘年会と毎年小さい集まりをもつことになりました。会ごとに数名ずつお顔ぶれが入れ替わって同期の交流がひろがりつつあります。

まだまだ公私ともに多忙な年代ですからお気軽に参加いただくのは少し先としても、40年を経て、思い出語りにとどまらぬ新たな交際の場があることをこの機をお借りして同期の方々にお知らせしたいと思います。

洋裁教室とギター教室を経営

小河原啓子　高校18回生（昭和41年卒）

竹早高校卒業後、桑沢デザイン研究所ドレス科でファッションを学び、数寄屋橋阪急百貨店入社、オーダー服デザイナー助手を1年。その後、小杉産業（株）でニットデザインに従事。そして日本の高度成長時代と共に、衣料のファッション化、需要が高まり、数社のデザインを手がけるようになりました。

バブル崩壊と共に、得意先企業が少なくなり、方向転換せざるを得なくなりました。考えたのが「カルチャースクール」です。自分の分かることで勝負しようと、13年前に池袋に教室を開きました。洋裁は学校で習っているし、長いデザイナー業で習得したものがあるのでそれが活かせ、ギターは18歳から師事して10年、過去に学んでいる、ということで洋裁とギターになったのです。自分のできない分野は講師の先生をお願いしました。

ギター教室は、クラシックギター、フラメンコギター、エレキギター、アコースティックギター（私担当）と日替りで行っています。

洋裁教室は他の講師の先生と私と2人で交替で行っています。最近はインターネットの普及で見てくれる人が多くなったのでしょうか、入会者が多くなりました。生徒さんも様々で、中高生、大学生から洋裁を習ってデザイン学校を目指している方、家政科の先生が補習の為に、子供服を作れるようにと主婦の方、男性の方も多くなりました。

人と触れ合うことが楽しい。また出来上がった作品を喜んでいる姿を見るのがうれしい。そんな仕事を楽しんでいます。

専業主婦とおばあちゃん
― 次の世代の幸せを願って ―

棚橋　冨美子　高校18回生（昭和41年卒）

この頃私は、駅で切符を買うにも、ＡＴＭを操作するにも、デジカメプリントを注文するにも、機械の前で悪戦苦闘しています。こんなことでは社会のお荷物になると焦るのですが、目がついていきません。

主人の勤務地静岡に移り住んで38年、郊外の丘陵地に住まいをもってからでも22年になります。自然に親しみ、人に出会うのは一日数人という生活では、老眼というだけでなく、遠くを見るのに適した目になってしまっているのかもしれません。

高校時代、私は殻に閉じこもりがちで、ああすれば良かった、こうすれば良かったと後悔ばかりしていました。けれども、自然に恵まれた中で子供を育てていると、そんなにクヨクヨすることはない、良くやっているじゃないかと大らかな気持ちになれました。子供の成長と共に、私自身も成長しなおすことができたような気もしました。今では、自然観察を兼ねた散歩を、健康維持の柱の一つにしています。

その自然が荒れてきています。見渡せば社会のあちこちに綻びが露呈していて、私は若い人達の将来が心配でなりません。

最近、人類の繁栄に大いに貢献してきた「おばあちゃんの力」が話題になっています。専業主婦同様、また、時代の要請する無償の行為かとも思えますが、足もとの生活を見つめ、子供を育てた毎日から得た知識には、侮れないものがあると思います。その知恵を生かして、若い人達が精一杯いきていかれるよう、何とか応援していきたいと考えているのです。

団塊の世代が育った時代年表

小・中学生時代	1947年	日本国憲法施行
	1953年	NHKテレビ放送開始
	1954年	三種の神器（冷蔵庫・洗濯機・白黒テレビ）普及し始める
	1956年	経済白書「もはや戦後ではない」
	1959年	皇太子明仁親王と正田美智子さん結婚
	1963年	ケネディ大統領暗殺
高・大学生時代	1964年	東京オリンピック開催
		東海道新幹線開業
		海外旅行自由化
	1965年	ベトナム戦争始まる
	1966年	新三種の神器（カー・カラーテレビ・クーラー）が注目される
		ザ・ビートルズ来日
	1969年	東大安田講堂事件
		アポロ11号月面着陸
社会人時代	1970年	大阪万博開幕
	1972年	札幌冬季オリンピック開催
		沖縄の施政権返還
		「日本列島改造論」
	1973年	第一次石油ショックと狂乱物価
	1976年	ロッキード事件
	1978年	成田空港開港
	1979年	第二次石油ショック
	1983年	東京ディズニーランド開園
	1985年	世界第1位の経済大国
	1986年	男女雇用機会均等法施行
	1989年	昭和天皇崩御
	1990年	ベルリンの壁崩壊
	1991年	湾岸戦争
		バブル経済崩壊
	1995年	阪神淡路大震災
		オウム事件
	1997年	金融不安
	1998年	長野オリンピック開催
	2001年	同時多発テロ
		家電リサイクル法施行
		BSE問題
	2005年	京都議定書発効
		愛・地球博開催
	2007年	食品偽装相次ぐ

時代に生きる――それは自分を生きる――ことでありました。
私たち団塊世代のエネルギーとは
　自立した心
　自由な心
　挑戦する心　を社会に向け続ける力であり、
自然環境や若者たちと共生する心を育みながら、
常に高い社会意識をもって、これからの時代を歩んでいきたいと願っています。

―高校18回生編集による―

篁会会長挨拶

「本ものを大切に」

磯貝　恵三
高校7回生（昭和30年卒）

昨年の篁会は新企画も加わり、充実した一年でした。

第二高女卒業生を中心とした「をとめの会」には、130名近くの「はつらつをとめ」が集いました。竹早祭の「お休み処篁」はスペース倍増、来場者は3倍増です。昨年末には「学年幹事連絡会」をたちあげ、会員連携マップの立体化を推進中。関連する名簿も個人情報管理のもとにシステム化されました。さらに、同窓会報「篁」は、前年のフルカラーに次いでA4サイズに変身、経費もクリアーして4ページ増えました。

これらの活動をベースに篁会の親睦と相互信頼の輪が広がってきたのでは、と自負しております。上記の企画や運営、編集作業に、気持ちをひとつにして参加してくださる理事、各種委員、総会担当学年の方がた、そして協力メンバーに感謝いたします。

このところ日本列島は「偽」の文字に覆われています。耐震偽装、食品、そして再生紙。本ものとはなに?どこにあるの?と疑りながらの毎日です。映画『いのちの食べかた』では生きものを感情抜きに「量産食品化」する現代のすがたが映されています。「いただきます」の真意が問われます。

さて、今年の目玉企画は本もの登場です。

会員の多彩な智恵、知識、経験を「後輩たちの生きる力の糧（かて）」にしなければ「もったいない」という思いが通じ、卒業生を講師とする「出前講座」がスタートします。大学受験の先にある世界を先取りする、いわば現行「竹早塾」の社会人バージョンですね。

講座内容は高校授業科目の枠を超えて設定します。外交、法律、福祉、文学、美術、映画、写真、演劇、脚本、スポーツ、デザイン、サービス……講義、演習、対談なんでも有り。そのためにも講師陣の拡充が望まれます。自薦他薦不問、熱烈歓迎、どうぞ名乗りをあげてください!

創立110周年はもう目の前です。皆さまの暖かなご支援とパワーでまた新たな企画も生まれます。楽しいご提案をお待ちしております。

会員各位のご健勝とご活躍を祈ります。

校長挨拶

「旭山動物園に学ぶ」

浅田　博
竹早高校校長

篁会の皆様には、母校の教育に関しまして温かいご支援を賜り、深く感謝いたします。

お蔭様で教育環境の充実が図られております。

また、19年度の竹早祭でも、無料カフェ“篁”開設としてご参加していただき、多くのお客様に喜んでいただきました。ありがとうございました。

校長として生徒に伝えたいことの一例を紹介させていただきます。

旭山動物園は、全国最北端の動物園として、今では上野動物園に匹敵する有数の人気を誇っています。しかし、ここに来るまでの道のりは大変なものでした。平成6年にゴリラが感染症で死ぬと、閉園の危機が迫りました。実際に私も行ってみて実感したのですが、北海道でありながら敷地はかなり狭く、パンダのようなスター動物もいません。その上、札幌（大都市）から遠く離れた不便な場所にありました。様々な悪条件を抱えていると感じました。

しかし、旭山動物園は、見事によみがえりました。あの有名なあざらし館（工費6億8百万円）は、動物本来の動きを来館者に見せたいという熱意と工夫の表れでした。恵まれない条件を嘆かず、条件をフルに生かす工夫、さらにはマイナスの条件をプラスに変えていくたくましさが、成功の条件だと思います。竹早高校の生徒諸君にもこの姿勢を身につけてもらいたいと思い、この話を生徒に紹介しました。

私自身も、旭山動物園から学んだことを忘れずに、竹早高校の条件をフルに生かし、微力ながら努力していく所存でございます。

教職員、生徒、保護者、同窓会の方々と共に、竹早高校のさらなる発展を目指していきたいと願っています。会員の皆様のお力をお寄せいただければ幸いでございます。

皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念させていただきます。

なつかしの先生

「点字辞典製作のこと」

三上　浩 先生
生物科（昭和34～昭和46年度在職）

竹早高校には、昭和47年まで13年間勤めました。これは私の教師生活の中で最も長い年数でした。どんなに下手に話してもしっかり吸収してくれる生徒ばかりでしたから、教師冥利に尽きる思いでした。

思い出も、学校の教育課程とくに教育の方法の改革、生徒と尾瀬や早池峰山の合宿山行等、沢山ありますが、今回は退職後に書いた点字辞典のことを報告します。

竹早高校を転出した後は町田市内の三校を回り、最後は忠生高校長で退職しましたが、その直前、一人の目の不自由な男子生徒の強い希望によって、受験を許可したことがあります。合格したその生徒が自学自習するための参考書や辞典などの補助教材が周囲に殆んど発見できなくて慌てました。わが国でもこの状態を放置できないと、その後の都教育庁嘱託の間もずっと気にかけていました。そして、結局辞典を作ろうと決心しました。

以前作った教案や米国のBSCSという斬新的な教科書の拙訳を中心に、原稿を書き進めました。しかし、次の点訳の作業は遅々として進まず、難渋していた矢先、校長時代の伝で、点訳赤十字奉仕団の人々が協力を申し出られ、干天に慈雨を得た思いでした。その後の作業は順調に進み、項目は約二千、A4版約千三百ページ、全九巻となり、約四年を費やして完成しました。その頃、病を得ていた私は「間に合った!!」と、強い安堵感を得たものでした。国立国会図書館・町田市・相模原市等に早速寄贈しました。

社会の反響の大きさ、さらなる期待の大きさの外、どうせならもう少し完成度の高いものにという気持ちも湧き、その「教養の生物学辞典」を増補して全十三巻として完結し、前記等の六ヶ所の公共施設に寄贈しました。

予想外に大きなライフワークになったのも、一人の少年と赤十字奉仕団の人々のお陰と、いま深く感謝しております。

「いまだ青春」

渡邊　義正 先生
数学科（昭和50～昭和62年度在職）

教諭として数学を教えていた25年間のうち竹早高校には、13年在籍した。新採で練馬高校に就職して10年間、その後の13年間であったから年齢的にも一番思い出のある教員生活であった。

30回生と34回生の担任を持ち卒業させ、42回生の1年のときの担任兼学年主任であった。昨年、30回生の同期会が開催され、2,3年生のときに担任した生徒だけではなく1年のときに担任した生徒や授業・部活動で思い出深い皆さんにお会いできて大変うれしかった。

2003年の会報で竹早時代の思い出を記したので、今回は近況報告をさせていただこうと思う。2001年3月に定年退職をして、その後4年間出身大学の同窓会（若渓会）の事務局にお世話になった。

ふとした縁で2005年4月から数学オリンピック財団の事務長として財団の事務局の統括をやることになった。数学の教師であった私にとって、再び数学に関係する仕事に就けたことはそれなりの感慨があった。

数学オリンピック財団は、国際数学オリンピック（IMO）の日本代表を選抜することを中心に活動している。IMOは、毎年7月に開催され、昨年のベトナム大会が48回目であった。93カ国・地域から520人の選手が参加した。各国6名の選手で競い、日本は、金メダル2名、銀メダル4名という結果で国順位は6位で過去最高の成績だった。この代表を選ぶために5月から募集を始め、1月に予選、2月に本選を行い、20数名を選抜して3月に合宿を行う。その合宿では、講義だけではなく本番に類する選抜試験を4日間行い代表選手が選ばれる。IMOでよい成績がとれるための工夫もなされる。その過程で、かつて日本代表であった大学生に手伝ってもらいながら仕事をしている。この若いエネルギーに刺激を受けて、私はいまだ青春の真っ只中である。

学校の活動報告

竹早高校副校長　八百板真弓

篁会にはいつも多大なる御支援を賜りましてありがとうございます。おかげさまで、生徒たちは恵まれた環境のもと、学習、学校行事、部活動等に力を発揮し、充実した学校生活を送っています。

都立高校36校を対象として行われた平成19年度学校経営診断を7月に受けました。診断のポイントは「45分7時間授業の効果と授業改善に向けた工夫」「遅刻防止と授業起立の確保に向けた取組」「3年間を見通した体系的・計画的な進路指導の工夫」等7点です。本校が基礎学力の定着を図っている点、「進路指導基本計画」を策定し、計画的に取り組んでいる点等は成果として評価されました。なお、「全教員で進学校としての地位の確立に向けて取り組んでいくこと」等が課題として示されています。診断結果は、都教育委員会のホームページにも公開されていますので、御覧ください。

また、都教育委員会による進学指導研究協議会（Ⅲグループ）参加校、進学指導推進校としての取組を19年度も継続し、着実に成果を上げました。

入学者選抜については、推薦に基づく選抜、学力検査に基づく選抜、海外帰国生徒対象（4月、9月）を行っています。前年度を上回る高い応募倍率であったにもかかわらず、辞退者が過去最高の6名出てしまい、定員に1名不足が生じました。結果、二次募集を行い、最終応募倍率62倍の学力検査に基づく選抜を実施しました。篁会の皆さまにも御心配をおかけしました。

家庭、地域の期待に応えるべく、今後も教職員一同、本校の歴史と伝統を大切に、自主自律の精神の涵養、確かな学力の育成、進路希望の実現に向け、励んでまいります。篁会の皆さまの一層の御支援をお願いいたします。

以下、年間の活動と進路実績を御報告いたします。

平成19年度の主な行事

4月　6日　始業式　9日　入学式(238名入学)　19日　健康診断
5月　1日　生徒総会　2日　校外学習(1学年相模湖ピクニックランド、2学年羽田・横浜、3学年ディズニーランド)
16日　体育祭(小石川グラウンド)
28～31日　定期考査　31日　避難訓練
6月　9日　授業公開　26日　学校運営連絡協議会
7月　3～6日　定期考査
17日　大学講座(学習院大学文学部、専修大学経済学部、東京農工大学農学部、中央大学理工学部)
20日　終業式　25、26日　水泳部関東大会(東京)出場
7月～8月　夏季休業日　講習　6教科29日実施
合宿　尾瀬(男女バスケットボール、男女硬式テニス、ソフトテニス、バドミントン、剣道、ダンス、吹奏楽、箏曲)　諏訪(陸上競技)　静岡(水泳)　山中湖(サッカー)　河口湖(男女バレーボール)　山梨県北岳周辺(山岳)
9月　3日　始業式、防災講話　14、15日　竹の子祭　16、17日　竹早祭
10月　6日　授業公開、学校説明会　23～26日　定期考査、
27日　体験入学、学校説明会　28日　都立高等学校等合同説明会(墨田川高校)　30日　学校運営連絡協議会
11月　7日　開校記念日　11日　都立高等学校等合同説明会(新宿高校)
23日　学校見学・相談会
12月　6、7、10、11日　定期考査　13日　大学等説明会
25日　終業式　26日～1月7日　冬季休業日　講習　3教科4日実施
1月　(平成20年)8日　始業式　19、20日　大学入試センター試験
24日　合唱コンクール　27日　入学者選抜(推薦に基づく選抜)
2月　9日　保護者のための進路講座(講師：小瀬川郷子氏)
15日　入学者選抜(海外帰国生徒対象)　23日　入学者選抜(学力検査に基づく選抜)
25日　国際理解講演会(講師：デヴィ・プスピタ氏)
3月　4～7日　定期考査　8日　卒業式(243名卒業)
9日　入学者選抜(学力検査に基づく選抜　二次)
11日　学校運営連絡協議会　13～16日　2学年修学旅行(沖縄)
19日　芸術鑑賞教室(劇団四季　キャッツ、ライオンキング)
21日　進路懇談会　25日　修了式

●父母と教師の会主催の竹早塾(土曜自習室)年間9回
(参加生徒数　延べ880名)

●進路状況(合格者数一覧・平成19年度卒業生243名)
平成20年3月28日現在

●国公立大学(12名)　東京工業大学(2名)、千葉大学、東京学芸大学、電気通信大学、東京海洋大学、埼玉大学(4名)、首都大学東京(2名)
●私立大学(427名)　早稲田大学(13名)、慶應義塾大学(2名)、東京理科大学(8名)、明治大学(38名)、青山学院大学(15名)、立教大学(20名)、中央大学(18名)、法政大学(18名)、津田塾大学、日本女子大学(9名)、東京女子大学(2名)、学習院大学(11名)、明治学院大学(21名)、成蹊大学(5名)、武蔵大学(7名)、成城大学(5名)、日本大学(23名)、東洋大学(35名)、駒澤大学(10名)、専修大学(10名)、国際基督教大学、東京電機大学(4名)、東京農業大学(9名)、東京家政大学(7名)、芝浦工業大学(4名)、大妻女子大学(5名)、昭和女子大学(3名)、その他の大学(123名)
●短期大学(14名)　青山学院女子短大(7名)、東京農業大学短期大学部(4名)、大妻女子大学短期大学部、東京家政短大、昭和音楽大学短期大学部
●専門学校(2名)　国立看護大学校、日本ホテルスクール
●就職(0名)

在校生の活躍紹介

竹早生のほとんどが積極的に参加し、青春の健在ぶりを示す部活動。
中でも華々しい活躍で注目を浴びる二つのクラブを紹介します。

野球部　キャプテン　藤原　健司

私たち野球部（軟式野球）は、現在1年生8人、2年生3人、マネージャー3人の計14人で活動しています。2007年の夏の大会では、2年生が少なかったので大学進学を控えながらも3年生7人がレギュラーとして残って活躍してくれました。その結果、1回戦目から逆転勝ちを収め、4回戦ではあの猛暑の中、4時間を超える激闘を制して延長13回なんとサヨナラ勝ち。久々のベスト8に進出しました。準々決勝の相手は常勝校の日大三高でしたが力及ばず敗退。竹早に勝った日大三高はこの大会で優勝し、全国大会に行きました。「もし」という言い方はないと思いますが、日大三高に勝って全国大会に行けるかもと期待も持ちました。ここまで勝ち残れたのも3年生の前キャプテン・部長の投打にわたる活躍があったからだと思います。3年生はこの大会で引退。残された部員は11人ですが、少ないとは言えども3年生によって培われた技術やチームの大切さを受け継ぎ、合宿が出来なかった分、暑さに負けず駒沢の野球

場に連日のように通い汗を流しました。チームワークを発揮した結果、秋の新人戦では2試合とも逆転サヨナラ勝ちし、練習の成果を出すことが出来ました。ベスト16が集まる都大会では9回、ツーアウト満塁まで迫りましたが1点が取れず涙しました。

今は、3年生をはじめ、諸先輩が築いてくれた伝統を受け継ぎ、上位のチームに勝てるような工夫をしながら日々の練習に取り組んでいます。

演劇部　部長　荒川　文乃

こんにちは。演劇部です。私たちは毎週火・木・金曜日に、文化部室または会議室で元気に活動しています。うちの部は現在1年生3人、2年生5人で、顧問の戸谷先生、岩品先生の下、日々練習に励んでいます。

活動内容は主にコンクールや定期公演に向けての練習となっていますが、その中で、部員たちと先生が一丸となって、脚本や演出を考えることを通し、「自分らしさ」や「個性」、「チームワーク」を高めています。そのため、先輩・後輩間の仲が良く、お互いに意見し合い、切磋琢磨して作品を完成させることができるのです。

いつもはのんびりとして、とてもマイペースな部活ですが、公演前となると、部員たちは覇気をもって練習に取り組みます。部員たちは皆個性的で、正直、何を考えているのか分からないと思う時もあります。そんな部員たちをいつも支え、励ましてくれるのが顧問の先生方です。先生方はいつも私たちを温かく見守り、時には厳しく指導してくださ

います。文化部室と頼りになる部員たち、そして素晴らしい顧問の先生が織り成すこの連帯感は、とても居心地のいい空間を作り出しています。

演劇部は、そんな人と人との関係を大切にする部活です。演劇は多くの人と関わり、その人々と生きたコミュニケーションをすることによって、相手を思いやり、自分を見つめ直すことのできる部活です。

そんな演劇を通して、私たちは成長して行きたいと思っています。これからも、一同頑張って行きますので、私たちの更なる成長にご期待下さい。感謝と共に、応援よろしくお願い申し上げます。

第一回「をとめの会（仮称）」開催

第二高女の拡大版同期会です。

2007年9月8日（土）学士会館にて、参加者127名を得て、盛会となりました。

海恋し 潮の遠鳴り数へては をとめとなりし父母の家

この仮称である「をとめの会」は与謝野晶子の短歌から引用しました。今後男性も会員になってくるので、名称は変更となる予定です。

会の企画としては、第二高女入学の方々ということで高校3回まで広げ、拡大版同期会という趣で、理事会の中に事務局をおき、「幹事役」を引き受ける、という形で進みました。第一回でもあり、試行錯誤で行き届かない点も多々あったと思いますが、多くの方々にご出席いただき、思っていた以上に喜んでいただけたことは、事務局としてとても嬉しいことでした。予想外だったことは、私達の方が先輩方からパワーをたくさんいただいた、ということです。第二高女に誇りをもち、凛とした生き方をしていらっしゃるお姿を拝見し、10年後、20年後はこうありたいと思う素敵な先輩方でした。

「始業のチャイム」とコーラスから始まり、最年長の大橋文さま（高女26回）の音頭で乾杯、また途中東京ケーブルネットワークの取材も入り、和やかな雰囲気の中、盛会に終わりました。お土産は第二高女の校章入りボールペンでした。参加の方々からいただいたお手紙や写真をご紹介します。（敬称略）

なお、次回は2008年11月8日（土）に、同じく学士会館で開催されます。あらためてご案内いたしますが、たくさんの先輩方にまたお目にかかるのを楽しみにしております。どうぞお健やかにお過ごしくださいませ。

をとめの会事務局　佐藤　美紗子（高校16回）・記

♪この度は「をとめの会」の写真をたくさんお送りいただきありがとうございました。早速アルバムに収めて、眺めたのしんで居ります。幹事の方々にはたいそうお世話になりました。大勢のご参加を得て明るい笑顔にみちあふれて楽しい会になりましたね。正に盛会で私も皆様の元気をいっぱい頂きました。これからも励ましをいただきながら少しでも長生きをしてお仲間に加えていただきたく一層健康には注意してまいりとうございますのでよろしくお願いいたします。来年の会もお会い出来ますように楽しみにしております。

松崎　悦子先生

♪「ローバは、一日にして成らず」「すべての道はローバに通じる」とか申しますが、高女41回生（昭和16年卒業）の私達は、甲子（きのえね）生まれ今年7回目の年女となります。卒業以来毎年続けていました級会の幕を引きました折、タイミングよく心やさしいお若い方々のご好意で、昨年皆様とお目にかいる機会を作って下さり、感謝感激の極みです。元気で命ある限り、参加させて頂き母校の伝統の誇りを心に刻みたいと思います。

松本　紀子（高女41回）

♪篁寿会が解散になって、プツンと糸が切れたように一抹の淋しさを感じて居りましたところ「をとめの会」として発足と聴いてうれしさで心おどりました。

附属小学校、府立第二高女、師範と13年間も同じ門をくぐった思いでの母校は、私にとっては懐かしい故郷であり誇りでもあります。あと何年生きることが出来るか残り少なくなった人生に火が燈ったようなわくわくした心持になり最高の喜こびです。9月8日学士会館で120人もの参加の盛況の中で幕をあけました。久しぶりにお会いした方との話はつきません。和やかな楽しい一時を堪能することが出来ました。年をとっても元気でいられるのにはこの様な集りが大事だとしみじみ感じました。今一番忙しい仕事に精出しておられる篁会の理事の方が、此の様な会を計画し実現に努力して下さいました事、心から感謝の言葉を捧げさせて戴きます。秋の集りを楽しみに元気でがんばります。

稲葉　良子（高女40回）

♪先日はゆきとどいた御配慮のもと、老女らのために会を催して下さいまして有難う存じます。私のクラス（36回白）は消息不明の方が一人もおられないことを誇りにして参りましたが、他界に移られた方も多く、私一人の参加は残念でございました。写真は少々恥ずかしながらこれも御礼申し上げます。来年はおろか、明日も心もとない年になりました。一言御礼まで。

関　とも（高女36回）

世代をこえた絆の深さに励まされて

♪かねてから三つの校章の歴史を守り続ける「篁会」の活動に誇りを感じており、役員をお引き受けするなどしておりましたが、昨年、私達の母校であった府立第二高女の特別な集まりを、若い会員の方々が企画・実現してくださったことは大きな喜びでした。最初にお話を何った時には多忙な事情もあり、発起人をお受けするかどうかと思った次第ですが、府立第二高女の卒業生が集まりやすく、楽しくすごせるようにという若い方々の特別の配慮と熱心さに「をとめの会」の発起人をお引き受けすることになりました。その後の若い方々の、周到な思いやりのある準備のご努力には頭の下がる思いでした。当日は予想を上回る127名が参加し、会員の美しいコーラスで始まった会は、大いに盛り上がり、先輩を思いやってくださる素晴らしい後輩に恵まれた幸せを感じて新たな力を頂いたような気が致しました。これからも「篁会」の三つの校章の下に、世代をこえた絆の伝統がいつまでも受け継がれていくことを心より期待しております。

西村　章子（高女44回）

古きを守り、新しく切り拓く

♪篁会の先輩方を目の前にすると、いつも思わず背筋を伸ばしてしまう。「私ももう少ししっかりしなければ」という思いに駆られるのだ。私達の年代にもあの戦争は牙をむき、爪跡を残した。入学早々空襲を逃れて地方へ散る。別れの日々の中でオルガンを囲んで歌を造り声を張り上げて再会を誓った。しかし12、3才の私達はまだ幼く恋を知るものも少なかったように思う。

先輩方は4、5年年長であるだけで、学徒動員など過酷な生活を強いられた。そんな黒い霧の中を、自分らしく生き抜いた方々の老いてなおしかもたおやかな姿が私を打つのだと思う。

「古き佳き伝統を守りつ、新しく切り拓く」会長在任中いつも思い悩んだが成し得なかった。去年9月8日、若い理事たちの、しかも初代男性会長の下における企画「をとめの会」に出席して、私はやっと納得した。「今、篁会は伝統を守りつ、新しい道を切り拓いているのだ」と。

星野　昌子（高校2回）

♪例年にない長いお暑さの中「をとめの会」では大変お世話になり、お疲れもとれない中に、先日多数のをとめ達にお心こもった記念写真、スナップ等々頂戴しました。
重ね重ね同窓会の理事さんにはお手間をお掛けした事と存じます。封筒は竹早色？切手にもセンスを発揮され、をとめ心を思い出しました。演出がお上手ですね。有難うございました。

井上　よしみ（高校2回）

すばらしい先輩

♪思いがけず「をとめの会」の発起人になってしまいました。戸惑い乍ら殆どお手伝いも出来ないまま理事の方々のたいへんなご盡力で「会」が開かれました。

すばらしい先輩の皆様に親しくお目にかかれまして嬉しうございました。改めて同窓の誇りを感じました。

学校が好きでした。楽しかった60年も前の在学中のあれこれを懐かしく思い出しました。第二に学べた幸せを噛み締めております。先輩の皆様のご健康をお祈り申し上げます。理事の皆様のお骨折りには、感謝感謝でございます。次の機会にも元気に参加したく、心がけて過そうと思っております。

冨安　光子（高女49回）

♪ごていねいなお便りと写真を沢山にお送り下さいましてありがとうございました。行き届いた“をとめの会”を今更のようになつかしく思い出しました。あの折、一期一会の積りで皆様にお会いいたして居りましたが、お便りを拝見いたして又元気にお会い出来るような活力を得て楽しくなりました。事務局の皆様のお骨折りに感謝申し上げます。

織戸　さなへ先生

♪篁会の理事（16回生）の方から2006年の秋に高女会の事で相談を受けました。昔、私が篁会理事の時、同窓会に新しい風を入れては?と、若い方たちとお互いに歩み寄ろうと篁寿会を吸収して会の一本化を図りました。その時は良かれと思っての事でした。些か後髪引かるる想いでしたけれど。結果は加齢により、考え方の尺度の違いなどから心ならずも總会にも、皆足が遠のいて了ふ結果になり最近はお互に寂しい想いが残っていました。又二年前に43回卒の私達が80才になり、事務能力の限界を痛感しクラス会も解散、淋しくなり始めていた時でした。早速、先輩方にご相談し、折角の後輩の方達の御好意に甘えさして頂こうと、今日に至ったのでした。現役で働き盛りの数人の方達が細かい心配りで処理された事、終りに130人のスナップ写真が各自に送られてきたときには、只々脱帽、本当に本当に御苦労様でした。感謝。御陰様で有難うございました。皆様の笑顔忘れません。

城戸﨑　愛（高女43回）

♪先日は“をとめの会”での写真を沢山お送り下さりありがとうございました。昨年でクラス会を打ち切りましたので、なつかしい方々にお目にかかれて嬉しうございました。幹事の方々の並々ならぬご配慮に感謝しております。来年の事は解りませんが、もし元気で居られたらまた出席させて頂きます。

関根　小夜子（高女41回）

再び最下級生となって

♪昭和21年4月、都立第二高等女学校に入学した学年です。間もなく学校制度の改革により、第二高等女学校併設中学校と名称も変り、3年後の高校入学までと、新制高校の1年間の併せて4年間を最下級生として過しました。お蔭様で、学校行事やクラブ活動に、厳しくも暖かい先輩のご指導をいただく事が出来ました。甘えさせていただいた割には、先生方にも可愛がっていただいた逞しい学年でした。それから55年後に再び、旧制女学校在籍者のお仲間に入れていただき、“をとめの会（仮称）”の最下級生となったのは嬉しい事です。今なお輝いていらっしゃる多くの先輩に接し懐しい想いでいっぱいになりました。私共の年令が一番若い世代と言っていただける会など他には考えられません。今後も先輩方を見習いよい年を重ね、この会を継続させて行きたいと念じております。行き届いたお世話をして下さった、篁会現理事の皆様にも御礼申し上げます。

小山　豊子（高校4回）

♪「をとめの会ができ、おめもじのチャンスが一回増えましたね」友達からの年賀状です。篁会総会からは足が遠のいていた私達でした。はじめて「をとめの会」のお話をいただいた時はいったい何？と思いました。でも昨年の会に参加させていただいて、これはよい会が出来たと同期の皆で喜び合いました。

私達高校三回生は「第二高女」に入学して、「竹早高校」を卒業することになった世代です。私達には篁燦会という同期会があって、ほぼ毎年、約三十名が元気な顔を揃えます。しかし、これがこのままいつまでつづけられることやらと、少し心配になって来ていたところに、この会が発足、何やらほっとした次第。その上、同期生だけでなく、畏敬する先輩、懐かしい後輩方にもお目にかかれるのですから素晴らしい。今後は後輩の枠が徐々に広げられ、より多くの方々に、この会でお会いできることを願っております。

高木　眞里子・彌永　珪子（高校3回）

関西篁会だより

島崎　良一　関西篁会幹事会　高校18回生(昭和41年卒)

関西篁会だより

平成19年度関西篁会・総会は11月17日（土）に篁会会長の磯貝恵三様をお迎えしてＪＲ大阪駅前のホテルグランビア大阪 20階 名庭の間で開かれました。今回の出席者は14名と非常に少なく残念でしたが懇親会はいつもどおり盛り上がり、近況や思い出話に花が咲きました。

関西篁会は19年11月時点で一時期250名以上を数えた会員数が196名となり減少しています。そのため、今後の関西篁会の運営を考え幹事会のあり方を変更いたしました。

その要点ですが、

①会長、副会長などの役職を廃止しました。

②運営は幹事会全体で行います。役割により係を設けました。（連絡係、広報係、会計などです。）

③関西篁会は幹事会が代表します。

④顧問として引き続き河合道子様（高３回）、野田朱實様（高７回）に運営をバックアップして頂きます。

⑤2010年の総会までは下記のメンバーで幹事会を運営します。

本会は関西のみでかたまるのではなく、篁会員でご出席をご希望される方は大歓迎です。平成20年度関西篁会・総会は10月26日（日）に大阪で開催の予定です。

記

連絡係	神能祥世（高12回）、中川大子（高13回）
会計係	井上悦子（高12回）、加藤祥子（高15回）
広報係	島崎良一（高18回）、武田晴代（高20回）
幹　事	姫野優子（高23回）、松森久美子（高25回）

以上

原　房子　高校18回生（昭和41年卒）

自分で考える子供たちになって欲しい

七田チャイルドアカデミー上新庄教室をはじめてもう６年目に入ります。右脳開発・右脳学習では20年の歴史と実績があり、全国に450教室を展開しています。

はじめた動機は、夫が企業で人事関係の仕事を長くやっていて、「人は幼児子供時代が大切だ、かなめだ」といつも言っていたこと、自分自身も３人の子供を育ててみて、思い当たる節があったこと、子供の手が離れてから高校の講師をしてみて、生徒を導くには幼児からの成長過程を知る必要があるのではないか？という疑問が生じたこと、などがあります。

また、夫もわが子の子育てには余り参加してなかった反省からか、子供教育を一緒にやろう！ということになり、スタートさせて、今日に至っているわけです。

０歳から６歳までの幼児コース、小学生のジュニアコースの２つ。少人数制の個別指導、結構、忙しい日々を送っていますが、子供は好きなので扱い方にも多少自信があります。日々のレッスンの準備、脳科学をかじり、子育て術を思い出して整理し、本社の講師研究会に参加して勉強し、レッスン技術を磨き、楽しい日々を送っています。

「右脳機能」は新しい発見ではないのですが、近年、脳科学が飛躍的に進歩した結果、わからないことが多かった脳の働きが、徐々に解明されつつあり、右脳機能もさらに明確にわかってきたのですね。また、赤ちゃんの脳も研究が着実に進んできています。

右脳が発達すると、カン、全体把握、空間認識、五感感覚、などがするどくなってきます。他人の動きがよく見える、本を読むのが速くなる、ものごとを図形化してとらえ考えることが得意になる、音・匂い・感触などもよく記憶できるようになります。その結果、自分で考え、自分で行動することに喜びを感じるようになって、自主性、自学自習の心が芽生えてくるわけですね。

勉強の成果と成績は、自分で自学自習をやらないと、決して向上しないと思います。どんな実績ある塾へ通っても、自分の頭で考え、自分の頭で回答を出してみないことには、話にならないと思います。間違えたっていい、とにかく自分でとことん考えてみることが、次のステップにつながっていくからですね。

ゲームもおもしろいし、ある程度はいいのですが、意外に複雑な脳の機能は使ってないという指摘もありますから、子供たちが長時間、ゲームに興じるのは、脳の衛生上、問題があると思います。大切なのは、自分でモノゴトの全体と部分を行ったり来たりして、ときに迷路に入りこみ、ときにむしゃくしゃしながら、耐えて耐えて、自分で考え自分で行動していくことだと思います。そこに、将来への基礎回路が形成されていくはずです。

子供たちと一緒に学んでいくのは、結局、自分の成長でもあります。老いていく脳細胞にすこしでも刺激を与えることができるならば！

結局、自分のための右脳教育かもしれません。

湘南篁会だより

影本　昌則　高校６回生（昭和29年卒）

湘南篁会の近況報告 ― 平成19年度の活動 ―

５月９日（水）に総会と懇親会を、例年通り鎌倉市七里ケ浜の「鎌倉プリンスホテル」で行った。

総会では、幹事代表として影本が挨拶し、本年も高女出身の先輩が多数ご出席いただいた事への御礼を述べた。続いて来賓のご挨拶で、本部からお越しの磯貝会長から最近の活動につきご報告いただき、村上幹事（高校８回生）から支部の会計と会員異動の報告があって総会は終了した。

懇親会は、元会長・松本紀子様（高女41回生）の乾杯で始まった。松本様からは、当日出席の薬師寺・橋本ご両名様（高女35回生）がこの度目出度く卒寿を迎えられる事へのお祝いと、これからもご健勝でこの会合に何時までもご出席いただきたい旨の挨拶があった。会食後、本年は田中順子様（高校12回生）から『イメージで読む源氏物語』をテーマに話をしていただいた。「いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひけるなかに、―――」という「桐壺」の緊張感あふれる書き出し部分の朗読で始まり、その「桐壺」の前半を解り易く解説していただいた。出席者で大半の方々が『源氏物語』の原文に触れるのが卒業以来の事でもあり、この間会場は学生時代に戻ったような雰囲気であった。最後に高女・高校それぞれの校歌を唱い、田村幹事（高校６回生）の閉会の辞でお開きとなった。

なお、平成20年度（2008年）の総会と懇親会は下記の通りです。奮ってご参加下さい。

●日時：平成20年５月16日（金）　12：00－14：30

●場所：鎌倉プリンスホテル　会費：7,000円

金子　浩子　高校２回生（昭和25年卒）

「ＫＹ」雑感

携帯で書いた小説がベストセラーになる世の中である。あの小さなスペースに、云いたい事を表現するのには、余程のテクニックが必要であろう。ところが、若い世代は事も無げにこの難問をクリアーしているのである。いや、難問などとは思わずに寧ろ、楽しんでいるようだ。記号、絵文字、顔文字などは勿論のこと、その上、勝手気ままにローマ字で略語を作ってしまい、携帯を駆使してそれぞれの思いを綴っている。

「ＫＹ」が、2007年の新語・流行語大賞の候補にノミネートされた。女子高生が発明した、空気を読めない人を揶揄する場合に使う略語である。そういう人物を携帯小説で説明するには、簡略で便利に違いないし、傑作（？）かも。

「空気を読む」って？「空気」を広辞苑で引いてみたら、気象学的、或いは、化学的説明の他に、「その場の気分、雰囲気」とあった。「読む」は、「声を立てて唱える」とか「詩歌を作る」などの他に、「了解する」、「さとる」、例えば、「顔色を読む」などの意味もある。従って、名詞、「空気」に「読む」の動詞を繋げる事は正しい。女子高生の国語能力は、なかなかなものである。

しかし、ここで感心ばかりはしていられない。昨年、政治の世界では、「美しい国」に始まって、突然の辞任、又、密室談義のお嫌いなお方の大連立密議、それから又、度重なる老舗ブランド偽称問題、等などに明け暮れた。ちょっと飛躍かもしれないけれど、「民意」や「消費者」を「空気」に置き換えてみれば、それらは「ＫＹ」ではないかしら…、と思ってしまう。

何でもかんでも略語にしてしまうのは、個人的には、あまり好きではないけれど、「ＫＹ」に甘んじないためには、周りを思い遣る心や、状況を判断する予知能力を持ち合わせるようにしたいものだと考えるのである。あら、いけない、この稿、「ＫＹ」になってしまったのでは…？

村上　英子　高校８回生（昭和31年卒）

インタビュー記

バレーボール部の想い出
憧れの先輩 名選手 中田（旧姓梶）高子さん　高校6回生

今回は、竹早高校バレー部の黄金時代に活躍された旧姓梶高子先輩（昭和29年卒）にお話を伺いました。

その時代、東京都高校バレーボールリーグは10部以上あり、１部には竹早、中村、桜町、小松川、白鴎、豊島、北野、以上７校が入っていて、桜町が１,２を争い、竹早が３位という様なことでした。

憧れの先輩
名選手　梶　高子さん

当時は外のコートで朝練を、放課後は暗くなるまで練習をしたものでした。練習も厳しかったのですが、公式戦ではミスをするとコーチが檄を飛ばして、足元によく小足がとんで来ることもありました。

合宿は、昭和28年頃には長野県善光寺の宿坊で、バレー部、バスケ部、男女合同でした。この時のコーチは坪島先生（早大ＯＢ）で、関東女子高校選手権が宇都宮総合グラウンドであり、後の東洋の魔女河西昌枝さんのいる甲府第二高女とあたり、勝利をおさめたのも楽しかった思い出です。

後に、巡りめぐって、偶然の出会いにロマンスが生まれ、結婚された方、一方バレーを通して結ばれた先生もいらっしゃいました。梶高子先輩にすばらしいお話をたくさん伺いましたが、今も昔も、竹早高校は勉強にスポーツにと、文武両道のすばらしい高校であることを確信致しました。

竹早エコー
Takehaya Echo

塩穴　春江　高校19回生（昭和42年卒）

もっと海外に和食・日本食を

私は、３年ほど前に早期退職して、調理学校に通い調理師免許を取りました。

前々から、50歳を過ぎたら、より自分の趣味に近い仕事に就きたいと思っていて、それにつながればという思いもあってのことです。

在学中は、和、洋、中の実習のほか、栄養学、食品学、食品衛生学、調理理論他の座学も勉強しました。実験では、細菌の培養をしたり、お米の最適な浸水時間を調べたり、今まで、なんとなく経験的にやってきた知識を確かめたり、

盛りだくさんの内容で、すごくためになりました。

その中でも、特に楽しかったのは和食です。その繊細さは「見て味わって」そして、いずれ、外国で日本料理のすばらしさを紹介するような仕事がしたいと、「わくわく」しながら学べました。日本料理研究会に入ったり、「すし講座」を受講したりして、気分はすっかり、プロの調理人です。

時々帰国するニュージーランド在住の娘は、その一番の楽しみと言ったら、「思いっきり、日本食を食べること」です。すし、てんぷら、すき焼き、きんぴら、シラス大根おろし？もうもう、太ってしまうのではと心配してしまいます。やはり、「小さい頃からの食べなれた食事なので無理ないよね！」と思っていました。

ところが、ニュージーランドに娘を訪ねた時も、彼女の注文で周りの人たちに振舞う日本食は毎回、大好評です。これからは、今まで以上にプロを意識して、てんぷら、すし、すき焼きなど、馳走する様々な外国人の日本食に対する反応を探り、健康食でもある日本食を広める事を楽しんで行きたいと思っています。

香川　洋子　高校20回生（昭和43年卒）

「大丈夫、大丈夫」並んで歩いて

私たちの高校時代はＡ・Ｂ組は男子、Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ組は女子でした。３年の運動会の仮装行列の衣装作りの時、Ｂ組から「手伝ってくれないかな？」と言われ、女子数人でカルメンや乳絞りの少女の衣装製作をしました。その後そのメンバー10人程で回覧ノートを始め、卒業までにはびっしり書き込まれた数冊が残りました。（今現在行方不明です。）「手伝ってくれないかな？」と言ったのが香川君で、「いいよ」と答えたのが私です。

同期生で結婚された方はどの位いらっしゃるでしょうか。私たちは22歳で結婚しました。出会いがそんな風ですので、いつでも横を向けばお互いがいました。

今までもそうでしたけど、「私って幸せだな。」と思います。私が興味を持っていることが新聞に出ていると「切り取っておいたよ」と見せてくれます。「何故だか知らないけど、僕の目がそういうところに行っちゃうんだよね。」と言いながら。

いつでもお互いが真横にいると思っていましたが、それを妨げる状況が来るかもしれないと言うことをこの度、初めて感じました。

これからは「生活習慣病」と一緒に歩くことになったのです。

私の仕事は保険代理店ですので、お客様の病気・ケガ・自動車事故・賠償事故など現実に取り扱ってきました。

これからは自分自身のこととして、どんなことが起こっても不思議ではないことを体感しました。「大丈夫、大丈夫」という子供の頃からの私のおまじないは、これからも私たちを守ってくれると思います。

古関　恵一　高校29回生（昭和52年卒）

時代を超えた継続

学園紛争の余韻＝諦観、石油ショックの動揺＝悲観、選択の無い学校群＝無力感、これらは、昭和49年入学時の雰囲気・世相だったと記憶しています。教室では私服女子の華やかな色彩、体育祭や文化祭の盛況があった。一方で都会的に自分の世界を持った同級生の姿があった。私にとってはすわりの悪さと気恥ずかしさも感じた時代だ。啓発され重要な人生観を得たのは高校時代だ。同期竹早生にも励まされ入試を終え、炭化水素系の気相化学研究を博士修了まで続けました。戦中には零戦の燃料を作った石油精製会社に就職し、新エネ／新燃料の基礎研究をしたつもりが、気づくと合併で米国系石油メジャーの日本拠点になって、英語メールが80％の環境になりました。現在はエタノール

等バイオ燃料の国家研究のリード役や規制に関する議論をしています。

竹早の環境は時代で大きく変化し、100年史には戦争、学校群、平成の各時代の相が伺えます。外部環境や建物・生徒気質も変わった竹早は、３～４つの異なる有機体でもある。

考えてみると、竹早の変遷と私の勤める会社の変遷にどこか類似性を感じます。企業は技術伝承の時代ですが、企業と同様、学校卒業生でも、「時代を超えた継続」や「時代性を読み解く何か」が大事かもしれない。それは現役世代に貢献しうる知見・情報であるかもしれない。「同質性」への目線や縁を大事にする考えが大事かもしれません。

本年度の篁会第29回生学年幹事を水嶋（町村）さんと共に仰せつかりました。名簿の整備や同期会開催に向け各ルームのご協力で準備致しているところです。是非、開催してほしいとの反響もあり、先生方をお招きして無事に実施したいと思っております。旧交を暖め、縁を深める機会とすると共に、その「何か」も考えたい。

野口　慎一　高校39回生（昭和62年卒）

私と生物部　そして生物部ＯＢ会の近況

私は竹早高校在学中、生物部に所属していました。当時の生物部は、室内での実験などはあまりせず、部員が植物班と昆虫班に分かれ、植物や昆虫の観察や採集などを主な活動としていました。私は植物班で、高尾山や丹沢、夏の山中湖の合宿では石割山や富士山など、勉強そっちのけで山を歩きまわって植物を観察していました。卒業後も、生物部の仲間や先輩方とは、尾瀬や上高地に行ったり、温泉やバーベキューに行ったりと今でも交流が続いています。

この生物部での活動がきっかけとなり、大学では登山のサークルに入部しました。高校在学中から高山植物を見たいと思っており、そのためには登山に必要な体力や技術を身につける必要があると考えての選択でした。このような動機で入部したものの、入ってみると登山のおもしろさにも目覚め、こちらも、卒業した今でも当時の仲間とは山へ行っています。一昨年の夏には、北アルプスの雲ノ平や黒部五郎岳などを縦走して、イワカガミ、ハクサンフウロ、

シナノキンバイ、クルマユリなどなど、たくさんの高山植物にも迎えられ、日常生活から離れて、ストレスを発散させてくれる貴重な休みとなりました。

生物部のＯＢ会は、2002年にＯＢ会を開催し、その後有志で、ＯＢの勤務する高校のビオトープを観察に行ったり、目黒の自然教育園で観察会を行なうなどの活動をしてきました。ここ１～２年のうちには、またＯＢ会を開催したいと考えております。前回の2002年のＯＢ会以降転居などで、連絡先が変更された方は、お手数ですが、下記まで御連絡下さい。よろしくお願いいたします。

高校39回生　野口慎一　ＴＥＬ03－3984－3639

鈴山　友樹　高校59回生（平成19年卒）

高校という枠

高校のクラスや部活動という枠は、狭く小さい。悪く言えば、制約がある。人数もメンツも限られ、練習や準備に費やす時間も少ない。

しかし、今思えば、その制約に溢れた経験こそ、高校生時代にしか味わえないものなのだ。限られた時間で、コンクールや大会に向け練習し、体育祭の競技を限られたメンツで勝つために戦術やダンスを考え練習する。文化祭では、クラスという限られた枠のなかで、劇を創りあげ、模擬店を出す。個性的なメンツを活かすべく、３年の自分のクラスでは、性悪で筋肉質な小人や小人達への復讐を誓う木やスターウォーズの悪役まで登場する白雪姫を作り出してしまった。

自分の世代だけかもしれないが、竹早高校の大半の生徒は、概して行事の準備期間の最初こそ、練習や準備を怠り面倒を避けるが、本番前になれば、「やれることをやる」という気概で前へ前へと進んでいき、実力を発揮していくのだ。その発揮される実力が竹早高校の魅力だと思う。

大学や一般社会では、時間も人間関係もゆるやかだ。多くの壁に直面し締め切りに追われることもあるが、それも選択肢の一つだ。逃げ出すのも締め切りや制約のない生活を選ぶことも可能だ。それでも逃げ出さずに自らの目の前

の壁を乗り越えようとするのは、竹早で培った経験や気概があればこそだと思う。

高校時代に毎日のように顔を合わせていた各々もそれぞれの生活を送っているが、もう集まることがないわけではない。軽音楽部の友人達とは卒業後も、ライブコンサートを行ったり、聞きに行ったりし、吹奏楽部の友人達とも、年に数回ではあるが集まっている。同じ大学に進学した友人も、度々、高校時代の友人達と会うとのこと。なにかを共にした友人というのは、進路を異にしても、自然と集まろうとするものだなぁ、と嬉しく思う。

大関　晃一　高校57回生（平成17年卒）

吹奏楽部の創部50周年を迎えて

最初に話を持ちかけられたのは、去年の定期演奏会でOBとしてお手伝いさせていただくために竹早高校に行ったときのことでした。岡本先生に突然、「今年で吹奏楽部が創部50周年だから、なにかやったら面白いよね？」と言われたのです。

大学生で忙しいことはわかっていましたが、こんなに光栄なことはないと思い、同年代の卒業生に声をかけ有志で実行委員会を結成しました。とにかく、どこで何をすればいいのか何も決まってない0からのスタートでしたので、話し合いの場は何度も設け、実行委員みんなで創り上げて行ったのです。

創部50周年記念会当日はというと、当日の朝でなければできない準備がたくさんあり、ギリギリまで準備をしていました。第一期生から現役高校生含め、100人以上の参加者を迎えることが出来ました。参加してくださった方々からしてみれば色々と問題点もあったかと思いますが、とても納得のいく会になったと思っています。今後も60年、70年と、この部が続くことを願っています。

『篁』回覧板

①開催日、②場所、③参加人数、④出席恩師、⑤幹事（連絡先）、⑥次回開催予定

●10回生（昭和33年卒）同期会

①平成19年12月8日（土）　②割烹　蔵（池袋西口）　③32名　④―　⑤関　文隆、角掛　隆　⑥今年6月～7月、同期豊泉君の陶芸の店見学を兼、日光中禅寺湖の予定

●15回生（昭和38年卒）同期会

①平成19年11月4日（日）　②東海大学校友会館　③38名　④織戸さなへ先生　⑤土田善則〈メール:cocoyoshi@jcom.home.ne.jp〉

●16回生（昭和39年卒）同期会

①平成19年9月9日（日）　②帝国ホテル　③59名　④―　⑤相田義正、金沢俊男、名川　修

●17回生（昭和40年卒）同期会

①平成19年6月3日（日）　②帝国ホテル　③67名　④大久保廣行先生、塩澤利雄先生　⑤代表:永長隆徳、原　嘉昭　TEL:090-1731-8774〈メール:hara-y@bd6.so-net.ne.jp〉　⑥今年秋頃

●19回生（昭和42年卒）同期会（一休会）

①平成19年6月9日（土）　②海燕亭上野店　③40名　④桑原先生、晴山先生、芝崎先生、織戸先生　⑤代表幹事:菅原哲朗　TEL:03-5396-3151、久保孝子　⑥6月21日（土）銀座キャピタル

●30回生（昭和53年卒）同期会

①平成19年8月26日（日）　②フォーシーズンホテル椿山荘ホテル東京　③118名　④渡邊義正先生、　利根川しげ子先生、松本義男先生、濱　和廣先生、加藤宣夫先生　⑤塚本（高橋）祥子　TEL:090-5397-8667〈メール:7g8k2t3s@jcom.home.ne.jp〉　宇津木（瀬田）美恵子、柴田（真貝）美香、渡辺（青山）道、白須（大熊）春江、清野　宏、西　大介、栗林　豊、田辺（山田）尚美、土橋　勝、土橋（藤井）真寿美

「小野政吉回顧展―情熱のカンヴァス」

近代日本の洋画界において独特な色彩と表現方法を追求した画家・小野政吉先生の芸術を紹介します。小野先生は作家としての活動を続けながら、一方で昭和24年より我が竹早高校の教職につき永きに亘り美術教育者として多くの人材を育てました。このたびの展覧会では画家・そして教育者という両面から小野政吉先生をとらえ、その人と画業を顕彰したいとおもいます。

■期間：平成20年4月11日～5月25日（月曜休館）
■記念行事：4月12日（土）「小野政吉を語る」
■会場・主催：さくら市ミュージアム　―荒井寛方記念館―
JR氏家駅より東野バス宇都宮行「勝山公園入口」下車歩5分
■観覧料：一般　300円
■後援：下野新聞、NHK宇都宮放送局、栃木テレビ、東光会
■協力：篁会（竹早高等学校同窓会）
■問い合わせ：さくら市ミュージアム
〒329-1311　栃木県さくら市氏家1297
電話028-682-7123
http://www.town.ujiie.tochigi.jp/page/museum.html

表紙写真

特集記事編集の18回生委員が表紙を担当致しました。人間を創ることが教育と仰っていた小野政吉先生（昭和24年から30年間、竹早で教鞭をとられました。）のライフワークといえるこのラグビーの絵「若人達」から私達団塊世代は勿論、これから未来を託す若者たちへの力強いメッセージを感じます。絵の具の色そのままをキャンバスにぶつけたという絵から受ける力強さ、1点をみつめる目の輝きから、ガンバレ！と言われているようです。本物をご覧になりたい方は、是非上記の会場へ。

清里高原 竹早山荘から

同窓生の交流の拠点

自由空間―竹早山荘

――自然から学ぶ・自然林でリフレッシュ――

竹早山荘は21,000m²余の敷地。自然林・池・湿地、草原に建つセミナーハウスです。恵まれた自然環境の中でさまざまな活動ができます。各種イベントや各自のアイディアで合宿・ワークショップ・セミナー講演会などにご利用いただけるレンタルスペースです。次代を担う青少年の健全育成を願いここでの出会いとふれあいでネットワークを作りましょう。設計は建築家吉村順三氏です。

竹早会主催2008年の企画（参加自由）

この恵まれた自然環境を活用して小・中学生のための

■子どもチャレンジキャンプ

（同窓生のお子様優先受付・ボランティアスタッフ募集）

夏休みキャンプ（3泊4日）
A:7月25日(金)～7月28日(月)　**C:**8月 6日(水)～8月 9日(土)
B:7月29日(火)～8月 1日(金)　**D:**8月21日(木)～8月24日(日)

2009年 春休みキャンプ（3泊4日）
3月30日(月)～4月2日(木)

各回参加費用　1人　28,000円

■《森のムッレ教室リーダー養成講座》受講生募集

今注目の自然環境教育の先進国スウェーデンが開発した、自然教育プログラムによるリーダー養成講座です。　知識を教えるのではなく一緒に考えるリーダーが子どもを育てます。教育に携わる人以外でも、幼児期からの環境教育に関心のある方・子どもたちの教育や遊びに関心のある方はぜひ受講して下さい。どなたでもどこでも自然教室を開くことができます。子ども達に地球の未来を託しましょう。

講座開催日（各回とも定員25名、同一内容）
A:5月31日(土)～6月1日(日)　**C:**9月27日(土)～28日(日)
B:7月20日(日)～21日(月)　**D:**3月21日(土)～22日(日)

各回受講費用　1人　25,000円

主催　日本野外生活推進協会・共催　竹早会
日本野外生活推進協会(愛称ムッレ協会)は、自然の中で、体で感じる環境教育の普及に努めています。

■森林インストラクター黛　治男(14回生)とあるく

軽いトレッキングをしながら、樹木や森林の生態・花・鳥・虫・蝶等をベテランの森林インストラクターと一緒に観察します。それぞれの季節ごとに自然の中で新しい発見があるでしょう。

《初夏の飯盛山トレッキング》締め切り5月31日
日時:6月7日(土)～8日(日)
費用:10,000円（小学生7,000円）

《秋の美しの森・川俣渓谷トレッキング》締め切り9月31日
日時:10月11日(土)～12日(日)
費用:10,000円（小学生7,000円）

■《山荘の環境を守るボランティア》募集

自然を守る森林整備(草刈・伐採・薪割り)を中心とした「ヘイ・ヘイ・ホー隊」山荘の生活環境（山荘整備・清掃・メンテ等)守る「ルン・ルンヘルパー隊」を募集しております。自然の中で体を動かし、気持ちよい汗をかきましょう。作業後の一杯も格別です。これを目当てに参加する方もいらっしゃいます。

活動日
A:5月17日(土)～18日(日)　**C:**9月20日(土)～21日(日)
B:7月12日(土)～13日(日)　**D:**11月15日(土)～16日(日)

参加費　3,500円　食費・保険料　**募集人員:各回15人**

■《山荘の清里済々窯　秋の窯焚き》参加者募集

山荘で作ったり、持ちよったりした作品を共同で穴窯に詰め、赤松の薪で100時間余焚きます。

窯詰め:9月29日(月)　**窯出し:**10月18日(土)
窯焚き:10月1日(水)～5日(日)

参加費用　10,000円+各自焼成費+食費
随時、有志による作陶会もあります。

賛助会員募集　3,000円以上

創立60周年記念事業として学校・PTA・同窓会の協力によって建設された竹早山荘（八ケ岳寮）です。昨年は廊下の絨毯の張替え、襖の建て付け直し、風呂の給湯機の更新をしました。今年はホールの壁の塗り替えを計画しています。活動の拠点として維持していくために、皆様のご支援をお願いいたします。

振込み先　みずほ銀行　駒込支店　普通　0463246
ゆうちょ銀行　10130-2　7227111　払込み口座　00160-5-97121

ホームページ　http://www32.ocn.ne.jp/-takehayakai/
お問い合わせ・お申し込み　竹早会事務局
TEL 03-3943-2415　FAX 03-3941-5872
E-mail：takehayakai@forest.ocn.ne.jp

篁情報館

Takamura Information Palace

2007年　篁会プロジェクト

竹早祭に参加

昨年度に引き続き学校との触合いをテーマにした「竹早祭参画プロジェクト」を9月16,17両日、喫茶室（お休み処篁）の開設及び学校推薦の参加優秀チーム表彰（盾贈呈）を行い、好評を博しました。

特に、喫茶室の方は昨年の倍（1教室）8テーブル40席を用意、高女時代からの学校史の映像が流れる中、エプロン着用の理事がせっせと各種飲み物と菓子を約800人のご来場者にサービスしました。

当初は本格ドリップ式コーヒーを目玉にと意気込みましたが、残暑の為か実際は冷茶、冷水、ウーロン茶が人気

で紙コップ不足になった程の盛況振りでした。

又前年同様来場者の方々へ、ご感想メモの実施をしましたが、約500名（在校生6割、OB、PTA、受験生家族で4割）の方から貴重なご意見を頂戴しました。

一例を挙げますと御休み処に来て「ホット」した「OBのサービス振りが嬉しかった」「無料が魅力」「今後も頑張って下さい」等々でしたが、印象的なことはOBの人が卒業後も在校生のために活動している姿を観て「竹早高校の伝統の重みを見た感じがすると同時に、是非こうした学校に子供を入学させたい旨」の感想を頂いたことです。是非今年は多くの篁会会員の方々がご来場頂けます事をご祈念申し上げます。

今年の竹早祭は9月14日（日）、15日（月）開催
皆さまのご来場をお待ちしています。詳しくはホームページで。

篁会学年幹事連絡会からのお知らせ

2月2日（土）13時30分から「第1回　篁会学年幹事連絡会」を開催しました。学年間の交流・情報の交換をテーマに、今回は20回生（昭和43年卒）から31回生（同54年卒）までを対象に、文京区立不忍通りふれあい館・会議室で。篁会として初めての試みとなりました。

冒頭、各期の学年幹事から、同期会の開催状況、竹早高校在学当時の思い出を交えての自己紹介。明後年総会当番学年となる20回生、学校群制が始まった22回生、学園紛争渦中に学園生活を送った23回生がそれぞれの思い出を語り、卒業20年を機に同期会を開催した26回生、義母が府立第二高女卒という29回生、30回生は盛大に開催した同期会を紹介、と次第に熱がこもり、大いに盛り上がりました。

磯貝会長から、竹早高校で開講を予定している、「篁会特別セミナー」（仮称）についての経過報告と担当講師など協力の要請。各理事から「篁会活動」の紹介があったあと、村上副会長から①会員名簿の共有化②篁会活動との連携強化③会費納入への協力依頼などの話があり、その後、質疑・懇談。約2時間の意義ある集いとなりました。

篁会の同窓会活動・会報発行などの継続に欠かせない集いとして、今後、年1回程度開催していく予定です。

尚、日程の関係などで今回連携の取れなかった、24回・25回・27回生からのご連絡をお待ちしています。下記アドレスに同期会幹事の氏名・近況をいただければ幸いです。

連絡先〈yama-02@eagle.ocn.ne.jp〉
篁会学年幹事連絡会事務局　山内　亨　高校14回生（37年卒）

活用される『篁基金』

平成10年より10年間の計画で進められている母校への篁基金援助。今年度も、合唱コンクールなどに使うひな壇、体育館舞台バック用緞帳、図書館用空気循環器、野球部用防球ネット、武道用タイマー、生徒会用パソコン、楽器等母校の教育環境の整備に貢献してます。

「篁会特別セミナー」（仮称）がスタートします！

篁会員が培ってきたノウハウや実績を後輩に伝えなければ、それこそもったいない!と思いませんか?そこで、経験豊かなOB、OGたちが講師となって、世の中に出てからの「楽しく充実した生きかた、学びかた、働きかた」を伝授するための「場つくり」を計画しました。

先輩それぞれが関わった仕事への魅力とか働きがいを垣間見ることが、進路や目標設定への足がかりになるのでは、という期待を込めた「出前講座」の実現です。社会への好奇心醸成にいささかの火付け役になれば幸いです。

OBのひとり緒形拳さんも「早く自分の惚れる仕事を見つけることが、高校時代でいちばん大切なことです」と語っています。（『竹早の百年』2003.3.20）

実施期日は1学期末（7月初～中旬）の午後とし、受講者多数の場合には、複数講座を準備し同時進行とします。会場は竹早高校内の教室をお借りします。

父母と教師の会および竹早塾との連携も考慮しながら、魅力ある「出前講座」に育てていきます。

高校生諸君へ。

「大学受験の先にある社会人生活を先取りしま専科!」

講座科目　現在準備中の数例を紹介いたします。

- ■空駈ける夢を追って（国際線元機長）
- ■裁判四方山話（弁護士、元裁判官・元検事）
- ■パールの輝きに魅せられて（真珠企業部長）
- ■快適な生活環境をつくるデザイン（プロダクト/インテリアデザイナー）
- ■百周年モニュメント、想像と創造への秘話（陶芸家、彫刻家）
- ■大学女子ボート部日本一への舞台裏（大学漕艇部部長）
- ■源氏物語誕生千年のロマンを読む（源氏物語研究家）
- ■決定的瞬間に物語りを焼付ける（写真家）

などなど。

ね、楽しそうでしょ!

ホームページ
www.takamurakai.com

篁会ホームページのURLが変わりました。

昨年より篁会ホームページは専用サーバーでの運用となり、URLもtakamurakai.comに変更となりました。

今後も篁会員だけではなく、教職員、在校生のみなさんのコミュニケーションの場として大いに活用していきたいと考えています。またホームページの内容を充実させるために、情報提供のネットワークづくりにも力を入れてまいります。是非みなさんのご協力をお願いいたします。

さらに篁会ドメインネーム（@takamurakai.com）のメールアドレスの公開、発行も計画中です。どうぞお楽しみに。

会報『篁』20号［特集号］

原稿募集要項

テーマ

①友情を温めた再会　②忘れ得ぬ1枚の写真
③私が勇気を得た言葉　④竹早山荘の思い出
⑤素晴らしき先輩（後輩）

その他、会報20号に寄せて

原稿

600字程度。写真（紙焼き又はデータで）
氏名、卒業年（回生）、連絡先明記。写真には説明を。

締め切り

2008年8月末日

原稿の宛先

〒112-0002　東京都文京区小石川4-2-1
東京都立竹早高校内「篁会・会報委員会」

連絡先

yama-02@eagle.ocn.ne.jp［山内］
《問い合わせはメールでお願いします》

平成19年度「篁会総会・懇親会」報告

平成19年度の篁会総会及び講演会それに続く懇親会は、初夏の6月3日、東京タワー側の「ザ・プリンスパークタワー東京」のコンベンションホールにおいて、多くの同窓生に支えられ盛大にとり行なわれました。出席者は来賓5名及び高女（5名）から高校59回生までの会員189名の総勢194名で、同期で多数出席されたのは高校14回生の14名、15回生の11名、17回生の50名、そして新入会員の41名でした。

【総会】　原嘉昭氏の司会で、磯貝会長の挨拶で始まり、村上副会長が議長に選出され、新任理事承認と紹介があり、続けて18年度の事業報告、会計報告、監査報告があり、引き続き19年度事業計画案、予算案、そして会則一部改正案の趣旨説明があり、全て承認された。

承認された会則

●改正前:9条2項　年会費の額は1,000円とし、総会通知に同封の振替用紙により納入する。

●改正後:9条2項　年会費は1口1,000円、1人1口以上とし、総会開催通知に同封の振替用紙等により納入する。

平成19年度「篁会総会」決算報告

（単位　円）

●収　入		●支　出	
会　費	1,238,000	会場費	1,515,540
祝　金　等	133,000	講演関係	200,000
篁会より補助	464,102	プログラム印刷代	28,920
		通信費	50,740
		その他	39,902
合　計	1,835,102	合　計	1,835,102

【講演会】　総会の後、映画字幕翻訳者で著名な『戸田奈津子』さんによる講演が行なわれ、聴講者一同、戸田さんの人柄に魅了され、アッという間の40分間でした。

【懇親会】　矢代文子さんが司会を担当し、最初に来賓紹介。その後に来賓を代表して浅田博校長の挨拶があり、乾杯の発声は塩澤利雄先生（S38～41英語）。その後しばらくの間、飲みかつ食べながら友人、恩師、クラブの仲

間達との賑やかな歓談の時間を過ごしたところで、素敵な大先輩でNHK放送文化賞を授賞された元会長の城戸崎愛さんの紹介・お話があり、続いて来賓の先生方からお言葉を頂きました。～筒井利行元校長（H6～9）、木村正雄元教頭（H1～3）、織戸さなへ先生（S23～45

数学）～今回、篁会のPRコーナーが設けられ、会報でも取り上げられていますが①高女懇親会を9月に開催予定の趣旨、②会報のPR、③昨年から始めた篁会運営の「竹早祭」無料喫茶室等を説明し、篁会は、理事及び会報委員の方々がボランティアで、篁会が充実する

よう、又さらに高校に何らかの寄与が出来るように一生懸命考えて行動しておりますが、会員皆様のご協力がなくては何も実現出来ませんので、是非とも積極的に参加して頂くようお願いいたしました。

この後、恒例の校歌斉唱があり、高女の方々が壇上に上がり声高らかに歌い上げ、高校は新入会員がリードし、全員で斉唱しました。そして、次回幹事学年（18回生）の野川淑子さん達から来年度の総会案内があり、最後に今回当番幹事の永長隆徳氏の閉会宣言がありお開きとなりました。

『銀幕のスター達と私の人生』

—戸田奈津子さん講演要旨—

《竹早高校とのご縁》

私は幼稚園から高校まで、お茶の水の付属でしたので、竹早の方々とは毎日の通学の時に大塚駅からの都電で乗り合わせた思い出があり、本日このような会に講演させて頂くのは何か不思議なご縁を感じます。

《映画と～英語と～》

若い時から映画が好きで、特に洋画に夢中になり、言葉を理解したくて英語を勉強し、大学もさらに英語を身に付けたいと思い津田塾大学を選び、さらに映画にのめり込みました。気がついたら普通の企業の就職活動時期も終わっており、一旦OL生活を経て、映画に関係する会社に転職し、そこで、突然英文科卒業で英語ができるだろうということで、来日の映画監督・出演者の記者会見での通訳を命じられ、四苦八苦しながら無我夢中で終わりました。それから次々に通訳を指名され、英語力・通訳力が徐々に向上し、著名な映画監督やスター達との交流が始まり、その縁で米国に招待され、撮影現場のスタジオで勉強し、さらに縁が深まって自分の財産となり、その後の字幕翻訳家としての活動に於いて、米国の相手より指名されるようになりましたが、日本の当時の字幕翻訳家は男性のみの閉鎖的社会で女性が認められるまでに30年かかりました。

《映画の字幕の苦労話》

実写を観てから翻訳までの時間が大変短く、何日も徹夜に近い状態で一人で完成しないといけません。なぜなら、アシスタント等を使うと言葉の微妙なニュアンスとか話の流れが変わってしまう可能性がありますので、どうしても一人の作業となります。

字幕には字数制限があり、さらにその表示時間があるので、いかに簡潔にストーリー性を保ちながら、且つ、いかに映画を観る人を引き込めるかを常に念頭に置いて、表現できる言葉を使うかがポイントになります。ただ正確に言語を訳すだけでは映画の字幕にはなりません。

《スターの個性》

私は仕事を通して多くの個性的なスター達と関わってきましたが、スターには2つのタイプ、すなわち、自分の演技をとことん研究し、出来上がった映画を観てさらに研鑽し、全ての時間を映画製作のために費やすタイプと、一方は、映画製作中のみ全精力を集中するが、撮影が済めば一切映画と関係を持たず、自分の出演映画も観ないというタイプとがあると思います。

《あるコメディアンの話》

ある有名なコメディアンの話ですが、彼は子供の頃から変な顔をして人を笑わせるのが好きでした。彼の親はそれを止めようとせず、かえって彼を誉めたため現在では大スターになったとの由。

親はどうしても子育ての時常識にとらわれて、子供の折角の才能の芽を摘んでしまいがちであるのに、このコメディアンの話はいかにも含蓄のあるものでした。

《若い皆さんに》

若い皆さんには、是非本気で夢中になるものを見つけて欲しい。私も今日までこれたのは、映画が好きで好きで、夢中になってやってきたからなのです。

だから、皆さんもなんでもいいから『夢中になれるものを持ってください!!』

理事会報告

平成19年度は以下の通り理事会活動を行なった。

4月2日第1回理事会　出席者21名　委任状3名　於　竹早高校
- ●18年決算、19年予算案を審議し承認
- ●年会費を「1口1,000円1人1口以上」とし会則を変更する事決議
- ●学年幹事会準備委員10名選出。
- ●高女会開催計画案提出され事務局人選承認。
- ●18年教育援助金の使用報告提出。
- ●会報のカラー化と、全在校生への配布分も含め14,000部印刷を承認

4月9日　竹早高校入学式参列（会長・副会長）

4月11日　会報校了　4月23日発送

5月9日　湘南篁会総会（於鎌倉プリンスホテル）出席（磯貝会長）

5月16日　竹早高校体育祭参加、優秀チームにトロフィー授与

6月3日　平成19年篁会総会　会場　ザ・プリンスパークタワー東京　出席者195名
- ●決算報告、活動報告、予算、活動計画、新任理事（8名）・原案通り承認。
- ●年会費の変更「1口1,000円1人1口以上」に関する会則改正を承認。
- ●講演：戸田奈津子氏「銀幕のスター達と私の人生」

7月11日第2回理事会　出席者24名　委任状1名　於　竹早高校
- ●理事退任：遠藤きみ氏（13回生）　金沢俊男氏（16回生）　大森宣彦氏（18回生）
  - 理事就任：榎本毅氏（16回生）　秋田秀明氏（18回生）
  - 副会長就任：豊岡理事（15回生）
- ●篁会総会の総括と収支報告承認。
- ●9／16・17の竹早祭参加企画を承認。
- ●9／8　高女会実施要領検討。

8月29日　第3回理事会　出席者22名　委任状3名　於　竹早高校
- ●理事退任：大高恵子氏（17回生）
  - 理事就任：松島美弓氏（17回生）
- ●20年総会運営骨子承認（6月15日第一ホテル、会費8,000円、講演会実施）
- ●学年幹事連絡会の開催準備案承認（重点学年に学年幹事調査アンケート実施）
- ●高女会実施要領承認
- ●竹早高校での"出前講座"に就いて検討

9月8日　高女会（仮称をとめの会）開催　会場：学士会館
- 高女～高校4回生対象で127名の参加を得て盛会に実施

9月11日　第1回会報編集会議開催（以降1／月開催）

9月16,17日　竹早祭参加
- ●篁会休憩室"たかむら"開設。（2日間通算900名来訪）
- ●竹早高校参加優秀チームへの表彰（楯授与）実施

11月17日　関西篁会総会（於ホテルグランビア大阪）出席（磯貝会長）

11月28日　第4回理事会　出席者18名　委任状7名
- ●理事辞任：福島成二氏（14回生）
  - 理事就任：山内　亨氏（14回生）
  - 企画担当理事就任：藤島理事（17回生）
  - 総務担当理事就任：榎本理事（16回生）
- ●細則の見直し検討案提出
- ●学年幹事連絡会2／2実施決定、
- ●篁会特別セミナー（出前授業）審議。

1月19日　篁会新年懇親会（会費制）実施
- ●理事及び監査、顧問、各委員会委員、学校関係者、PTA代表等
  - 篁会活動に関係する有志25名参加

2月2日　第1回学年幹事連絡会実施
- ●20～30回生の6学年8名の参加を得て初めて開催。

3月8日　竹早高校第60回卒業証書授与式参列（会長・副会長）

3月29日　第5回理事会　出席者18名　委任状4名　於文京シビックセンター
- ●理事辞任：中村光宏氏（23回生）
  - 理事就任：香川洋子氏（20回生）　水田茂夫氏（23回生）
  - 副会長就任：小林稔氏（23回生）
- ●19年度決算、20年度予算の審議し承認
- ●篁会特別セミナー実施日程と講師案承認
- ●細則見直し審議、承認

文責　村上

篁会平成19年度収支報告

2008/3/31

平成19年4月1日より平成20年3月31日まで

収入の部

科　目	金　額
前年度繰越金	14,888,856
入会金：新会員242人	1,936,000
年会費	2,456,000
総会会費	1,253,000
出版物販売代金	55,500
雑収入	124,878
諸事業収入	1,529,000
受取利息	16,905
小　計	22,260,139
百周年事業基金	5,540,090
合　計	27,800,229

支出の部

科　目	金　額
総会開催関係費	1,835,102
贈呈記念品費	470,047
会報発行費	2,303,620
会議費	140,792
通信費	4,710
旅費交通費	25,900
事務用品費、消耗品代	9,030
教育援助金	100,000
慶弔費	20,000
HP運営費	0
諸事業経費	1,506,772
会費入金払出手数料	220,080
その他	1,680
小　計	6,637,733
次年度繰越金	15,622,406
百周年事業基金	5,540,090
合　計	27,800,229

期末の現金預貯金等の残高

現　金		41,977	
預貯金	郵便局通常貯金	4,550,699	
	郵便局定額貯金	7,000,000	
	郵便局振替口座	0	
	みずほ銀行本郷支店普通預金	9,569,820	百周年事業基金を含む
合　計		21,162,496	

篁会平成20年度収支予算（案）

平成20年4月1日より平成21年3月31日まで

収入の部

科　目	金　額
前年繰越金	15,622,406
入会金：新入会員	1,936,000
年会費	2,900,000
総会会費	1,220,000
出版物販売代金	10,000
雑収入	0
諸事業収入	1,400,000
受取利息	5,000
小計	23,093,406
百周年事業基金	5,540,090
合計	28,633,496

支出の部

科　目	金　額
総会開催関係費	1,850,000
贈呈記念品費	400,000
会報発行費	2,500,000
会議費	200,000
通信費	20,000
旅費交通費	50,000
事務用用品、消耗品費	10,000
教育援助金	100,000
慶弔費	50,000
HP運営費	50,000
諸事業経費	1,710,000
会費払出手数料	250,000
予備費	200,000
小計	7,390,000
次年度繰越金	15,703,406
百周年事業基金	5,540,090
合計	28,633,496

篁会役員名簿（平成20年4月現在）

会　長	磯貝　恵三（高校7回生）	理　事	藤島　磁郎（高校17回生）
名誉会長	浅田　博（竹早高校校長）	〃	松島　美弓（高校17回生）
顧　問	星野　昌子（高校2回生）	〃	秋田　秀明（高校18回生）
副会長	村上　伸一（高校14回生）	〃	野川　淑子（高校18回生）
〃	豊岡　貞之（高校15回生）	〃	森　多恵子（高校18回生）
〃	小林　稔（高校23回生）	〃	菅原　哲朗（高校19回生）
理　事	内山　光政（高校10回生）	〃	鈴木　輝夫（高校19回生）
〃	柏木　洋子（高校12回生）	〃	木村　民子（高校19回生）
〃	板東　尚武（高校13回生）	〃	香川　洋子（高校20回生）
〃	山内　亨（高校14回生）	〃	吉岡　新（高校21回生）
〃	土田　善則（高校15回生）	〃	水田_茂夫（高校23回生）
〃	榎本　毅（高校16回生）	〃	細田　裕美（高校28回生）
〃	古山浩之助（高校16回生）	〃	平川　悟（高校52回生）
〃	佐藤美紗子（高校16回生）	監　査	池田　明子（高校11回生）
〃	原　嘉昭（高校17回生）	〃	萩　隆之介（高校12回生）

お知らせ

●年会費納入のお願い

カラーでA4サイズとなった会報「篁」。これからも同窓生相互の交流、親睦を深めるため、さらに母校及び現役生に貢献できるためにも、篁会会計の充実を図りたく、平成20年度予算にて年会費の増収を見込んでおります。是非共、会員の皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

【今回より年会費の複数口受け付けます】
同封の郵便振込用紙をご利用ください。
・年会費　　1口1,000円　1口以上
・総会参加費　8,000円（参加の方のみ）

●ご意見・ご希望は

会報は同窓生みんなのものです。本誌へのご意見・ご希望を同封のハガキ（総会出欠用）等でお寄せください。「篁会・会報委員会」

また、住所等が変わられた方は、下記までお知らせください。

〒112-0002　文京区小石川4-2-1

東京都立竹早高校内　「篁会・名簿委員会」

編集後記

昨年度よりフルカラーそして今年はA4サイズと会報を進化させるべく、会報委員会の皆で知恵を出し合い、皆それぞれ忙しい中、皆の協力で今号もできました。特に原稿をお寄せいただいた方々には心からお礼申し上げます。ありがとうございました。そして、会報委員の皆様に心から感謝申し上げます。　（原　嘉昭）

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

旧職員

松村登喜男	化学	1999
角川　キヨ	社会	2005
笹山　清	体育	2008.3
市川　廣康	事務長	2001

高女

大12卒	（23回生）		舘脇　美代	（小谷）	2006.1
大13卒	（24回生）		成瀬　みつ	（鈴木）	1992
大13卒	（24回生）		前田　みつ	（小塩）	2007.4
大15卒	（26回生）	乙	野中　敏子	（中山）	2005.6
大15卒	（26回生）	甲	山内　かな	（石川）	2006.11
昭4卒	（29回生）	乙	風間　元子		
昭4卒	（29回生）	乙	下村富美子	（渡辺）	2006.12
昭4卒	（29回生）	乙	日高満州子	（福島）	2006.8
昭4卒	（29回生）	乙	吉川　菊子	（大野）	2004.11
昭5卒	（30回生）	甲	島中　ミワ	（大庭）	2006.10
昭7卒	（32回生）	乙	谷地田淑子	（大賀）	2007.1
昭8卒	（33回生）	甲	吉武　統子	（神谷）	2005.1
昭9卒	（34回生）	甲	愛知　富	（宇田）	2008.2
昭10卒	（35回生）	白	瀬野　悦子	（渡辺）	2006.2
昭11卒	（36回生）	紅	林　もも	（石川）	2004.10
昭11卒	（36回生）	紅	山内　和子	（田阪）	2006.10
昭11卒	（36回生）	白	巌崎　有里		2004.6
昭11卒	（36回生）	白	岩田　貞子	（高橋）	2006.10
昭11卒	（36回生）	白	萱場　富枝	（岸）	2006.11
昭11卒	（36回生）	白	吉田千萬子	（武内）	2006.12
昭12卒	（37回生）	紅	寺本富士子	（飯田）	2006.11
昭12卒	（37回生）	白	石島　佳	（金子）	2006.12
昭12卒	（37回生）	白	笠間　千恵	（築山）	2006.5
昭12卒	（37回生）	白	濱中　二	（稲田）	2006.7
昭14卒	（39回生）	紅	池田緯美子	（神吉）	2005.6
昭14卒	（39回生）	紅	渋谷　きよ	（清水）	2007.2
昭14卒	（39回生）	紅	高木　芳枝	（岩間）	2007.3
昭14卒	（39回生）	紅	武井　千代	（石川）	2006.1
昭14卒	（39回生）	白	津村　富恵	（高津）	2007.5
昭14卒	（39回生）	白	藤原　澄子	（瀬川）	2006.8
昭14入会	昭和補習科		下田あい子	（玉川）	2007.2
昭15卒	（40回生）	紅	鈴木　涼子	（上田）	2006.9
昭16卒	（41回生）		河野　信子	（北村）	2007.3
昭18卒	（43回生）		高梨　歌子	（丹羽）	2005.6
昭19卒	（44回生）		数野　道子	（土屋）	2006
昭19卒	（44回生）		河合　里		2005
昭19卒	（44回生）		鈴木　哲子	（伊藤）	2007
昭19卒	（44回生）		村田　照子		2006
昭19卒	（44回生）		茂木ふみか	（中島）	2007

高校

昭20卒	（45回生）		千葉　禮子	（岩間）	2006.11
昭25卒	（2回生）		野崎　邦子	（藤倉）	2007.3
昭25卒	（2回生）		丸山　伸子	（木本）	
昭26卒	（3回生）	A	永田　綾子	（樋口）	2007.6
昭27卒	（4回生）		田村　洋子	（青木）	2007.1
昭27卒	（4回生）		藤田多賀子	（小川）	2007.9
昭29卒	（6回生）	B	梅沢千代子	（近藤）	2006.7
昭32卒	（9回生）	F	内田　庸子	（前田）	2006.11
昭33卒	（10回生）	C	太田三香子		2006.8
昭33卒	（10回生）	E	安蔵　立雄		2007.1
昭34卒	（11回生）	E	矢吹　正明		2006
昭35卒	（12回生）	C	鈴木　祐子		2007.2
昭38卒	（15回生）	A	岡本　康弘		2006.1
昭38卒	（15回生）	A	斎藤　恂		
昭41卒	（18回生）	B	緒方　義道		1967
昭41卒	（18回生）	B	山口　晶子	（横田地）	2007.7
昭41卒	（18回生）	C	永野　忠孝		
昭50卒	（27回生）	C	光星　洋美		2003
昭51卒	（28回生）	E	大塚由美子		2007.5
昭52卒	（29回生）	A	佐々木章子		
昭54卒	（31回生）	D	香川　廣正		2007.4
平14卒	（54回生）	D	田村　幸子		2006.11

（敬称 略）

＊平成20年3月28日までにご連絡いただいたものです。

《誤報によるお詫び》

昨年の18号会報に於いて、訃報の誤りがあり、下記2名の会員の方に多大なるご不快感とご迷惑をおかけしてしまいました。深くお詫び申し上げます。

高女41回生　服部　禮子（栗林）様
高校４回生　坂野　ミヨ（鈴木）様

篁会理事会一同